

KBS

ケイビーエス株式会社

www.kbsjapan.com

【社内報ナルゲ】

날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。

ナルゲ

nalgae

vol. 54
January 2021



謹賀新年

2021年元旦



父との思い出の場所



先代社長の私の父は、ふぐが大好物だった。ちょうど会社の並びにてっちりを出す小料理屋があり、仕事が終わるとしょっちゅう顔を出していた。新世界へ行くのが好きだった父は、小腹が空くと必ず「づぼらや」でてちりを食べていた。私も何度か一緒に食べに行ったことがある。父は昔変わらぬ味が好きだと言っていた。

その「づぼらや」が、去る9月に創業100年の歴史を終えて閉店してしまった。原因は色々であるようだが、一番大きな決め手は「新型コロナウイルス」である。店頭にかかる巨大なとらふぐの看板が名物として知られ、老舗ふぐ料理店として親しまれてきたが、近年では日本人よりも訪日観光客の姿をよく見かけた。年々高まるインバウンド景気に支えられていたのは間違いないだろう。それが新型コロナウイルスの流行で、観光客がぱったりといなくなってしまった。2020年の訪日外国人の数は

前年に比べて約85%減、3月以降に限れば99%減と、ほぼゼロに近い数字で、最近一部の国に限りビジネスでの入国が許可されたとはいえ、焼け石に水である。

新型コロナウイルスは、KBSにも影響を及ぼしている。インバウンド関連の翻訳案件の受注量が激減し、非常に厳しい状況に置かれている。Go To キャンペーンで国内旅行は少し活性化しているようだが、海外旅行はまだ解禁されるという話はない。ただ、来年は東京オリンピックを控えているので、安全が担保される形で訪日観光客を受け入れてもらえないかと期待している。いずれにしても、何とかこの悪夢が去ることを祈るばかりだ。

父との思い出の場所がまた一つ無くなってしまった。もうあの大きな張りぼてが見られなくなると思うと残念で仕方ない。

代表取締役 高 允 男



不平常的日常

翻譯者 劉中儀

ニューノーマル

照片裡的這個娃娃，是我小時候愛吃的零食包裝袋上印著的卡通人物。作為歡樂童年的一頁，一直以為娃娃會以不變的姿態深藏在記憶裡，然而現在架上的娃娃戴著記憶中沒有的口罩……是的，今年年初爆發的新冠病毒疫情驟然蔓延，轉瞬間，一切的理所當然都不再是理所當然。

首先，口罩、酒精成了生活必需品。面對眼前肉眼看不到的敵人，台灣的人們開始排隊購買防疫物資，最初每人每星期只能買到2片口罩，酒精更是只要一上架就馬上搶購一空。目前口罩購買已經鬆綁，市面上甚至出現各種色彩、花樣不同的口罩，讓口罩不再只是防疫用品，甚至成為個人時尚配件。而且伴隨疫情管控得當，只需要在搭乘大眾交通工具或無法確保社交距離時戴口罩；但曾幾何時，出門前總要確認口罩帶了沒，除了驚嘆於人的適應力外，也不禁會想，什麼時候能回到以往只需要偶爾戴口罩的日子。酒精供貨也趨於安定，搶購人潮不再，但每天回家後的門把消毒、手部消毒、手機消毒曾幾何時已成了例行公事。

其次，上學、上班、旅行等移動不再是理所當然，科技的進步使得我們得以在疫情蔓延中在家遠距上班、上課，卻喪失了隨意出門、移動的自由。雖然台灣從未如其他國家一般禁止人們外出，但回想起之前那段為了防疫，連家人也儘可能透過通訊軟體互相關心的日子，除了慶幸疫情已逐步趨緩外，也總是讓我提醒自己，要珍惜現在身邊的一切。家人、朋友、上班時搭的電車及公車，到電影院看電影，假日到餐廳打打牙祭，一切的一切都是彌足珍貴。

另外，這次疫情也讓我重新認識我的家鄉——「台灣」。首先是在各界的「台灣國家隊」帶領下，台灣的人們記取當年SARS疫情的苦澀教訓，面對新冠疫情打了漂亮的第一仗，讓 myself 身為台灣人為榮。而面對疫情下無法出國的現況，人們開始在台灣各地進行所謂的「報復性旅遊」。每到假日，各個景點總是人山人海；電視上的相關報導或朋友、親戚在臉書等處的貼文，也總是讓我驚訝原來台灣還有那麼多值得探訪的美景、美食。

走筆至此，我忍不住幫照片裡的娃娃拿下了口罩。口罩下，依舊是記憶裡那個露出兩顆門牙的可愛笑臉。儘管疫情改變了我們的日常，但且讓我們在口罩下還是不忘微笑，並衷心期盼疫情早日結束。

写真にあるのは子供の頃よく食べたスナック菓子の袋にプリントされているキャラクターのフィギュアです。幼少時の楽しい記憶として、その姿は変わらないものであろうとぼんやり思っていたのですが、今年の初めに突如として始まったコロナ禍のために、マスク姿のフィギュアまで出回り、当たり前前の日常は変わり始めました。

まず、マスクやアルコールは生活必需品となり、目に見えない敵を前に、台湾の人々は感染防止アイテムを買うために、あちらこちらに長い列に並ぶようになりました。最初の頃、マスクは1人1週間2枚しか買えず、薬局の棚にアルコールが陳列されるやいなや、完売となりました。最近ではマスクを自由に購入する事ができるようになり、色・模様と工夫された各種マスクが出回り、感染防止アイテムと同時に、ファッションアイテムとしても楽しめるようになってきました。また、国内感染がほばないため、公共交通機関に乗る時、またはソーシャルディスタンスが保てない時以外、マスクは必要ではなくなってきました。しかし、いつの間にか、出かける前には必ずマスクがあるかチェックする自分がいて、with コロナの現状に慣れるのは想像以上に早かったです。ただ時々、以前のように、必要のある時にマスクを着ければいい日々が懐かしかったりもします。アルコールに人々が群がることも無くなりましたが、帰宅後にドアノブ、手と携帯のアルコール消毒は日課になっております。

次に、コロナ禍により、通学・通勤・旅行などの移動は当たり前ではなくなり、技術進歩により、感染防止のために遠隔授業や在宅勤務ができますが、気ままに出かけて移動する自由が制限されるようになりました。他の国と比べて、台湾は外出禁止及び自粛のような緊急事態までにはなりませんでしたが、一時期、実際に会うより、通信アプリで家族団欒をするようになりました。現状では感染がコントロールされていますが、今の全てを大事にしなければいけないとよく考えるようになりました。空気のようにいる家族と友人、電車やバスに乗って出勤すること、映画館での映画観賞、休日の外食など、これらは全て当たり前前の日常ではなく、実は大変貴重な財産です。

コロナ禍は私に故郷「台湾」を再認識する機会をもたらししました。各分野の「台湾国家チーム」の専門家のお陰で私たちは、SARSの苦しい教訓を生かし、有効に水際対策などを講じました。台湾人として光栄に思っています。また、出国できない代わりに、台湾各地で「リベンジ旅行（報復性旅行）」ブームが巻き起こっています。休日には、入場人数を制限するほどの盛況であり、関連報道またはSNS等の投稿を目の当たりにするたび、知らない景勝地やグルメの豊かさに舌を巻くほどでした。

筆を置く前に、フィギュアのマスクを外してみましたら、前歯を出しての笑顔は記憶のままでした。ニューノーマルの今日この頃、マスクの下は笑顔でいようと誓いました。そして、台湾より、コロナ禍の早期収束という願いを込めて。



Covid-19: Pasado, presente y futuro

翻訳者 Oskar Lanziego
オスカル ランシエゴ

新型コロナウイルス：過去・現在・未来

Desde que nació, siempre había pensado que era extremadamente afortunado, me tocaba vivir una época en la que no iba a sufrir de cerca una gran contienda bélica, por lo menos no una de esas absurdas guerras que habíamos soportado durante el siglo XX. Tampoco iba a ser devorado por una fiera, de esas que merodeaban en épocas prehistóricas. Me reconfortaba pensar que vivía un periodo lleno de adelantos tecnológicos de todo tipo, en campos como la biotecnología, las energías renovables, la medicina, la robótica, la tecnología de la información y un largo etc., todo lo que auspiciaba que la humanidad iba a vivir más y mejor, en definitiva, un tiempo dorado en el que las personas íbamos a ser más felices, que la globalización cultural que nos hacía más proclives a respetar al diferente, a interesarnos y acercarnos a nuevas gentes, culturas, gastronomías y formas de vivir, nos iba enriquecer.

Todo esto era así, hasta que un día oí una noticia en la televisión, en principio poco perturbadora: se había descubierto un nuevo virus. A medida que los días pasaban esta noticia se hacía más persistente y repetitiva hasta que se encendió la alarma, el virus se había hecho incontrolable y ese virus que aparecía lejos de nuestras fronteras se acercaba más y más. La tensión y el nerviosismo se apoderaban del Planeta. Lo primero que me estremeció fue comprender lo vulnerable que es el ser humano y nuestro mundo, en un plis-plas todo aquello que había augurado se venía al carajo, todo el sentido de seguridad saltaba por los aires. Las personas empezamos a sentir desconfianza por el prójimo; acercarse al desconocido era peligroso y cuanto más desconocido, más peligroso. Los días pasaron y en mi ciudad, San Sebastián, la preocupación se extendía. Viendo la situación, el Gobierno del País Vasco, norte de España, decretó el estado de alarma y vino el confinamiento. Los días pasaban y había que afrontar la situación. El distanciamiento social era una máxima esencial. Primero había que pensar en cosas básicas: cómo poder hacer la compra de alimentos sin tener que salir mucho a la calle, cómo poder pasar el tiempo en casa sin perder masa muscular y, por su puesto, cómo vencer el aburrimiento que supone un confinamiento casi total. Pasaron así uno, dos y tres meses, y se decretó el fin del confinamiento, — ¡qué gran alivio para mi carga emocional! —.

Desde entonces ya ha pasado más de medio año y echando la mirada atrás me causa tristeza pensar en todas esas personas que el virus se ha llevado lo más preciado que tenían: la vida. Sin embargo, también hay un gran cúmulo de lecciones aprendidas y agradables descubrimientos, como por ejemplo que el hombre hace frente a la adversidad con valentía, que hay un gran número de personas muy valiosas: médicos, enfermeras, personal encargado de la limpieza de las calles y avenidas, la trabajadora de un supermercado, en definitiva, una gran cantidad de personas que se exponen a la incertidumbre de la enfermedad por los demás. También he aprendido que una enfermera, por su contacto continuo y directo con el enfermo, puede ser en algunos casos más importante que un médico, que el ayudar al prójimo es ayudarnos a nosotros mismos, que hay que vencer el miedo con los conocimientos necesarios, en fin, que una sonrisa puede ser, a veces, más importante que todo el dinero del mundo.

Ahora lo que espero es que acabe por fin esta pandemia, que todo lo aprendido nos sirva para mejorar y que los seres humanos estemos mejor preparados ante futuras pandemias, que seguro podrán de nuevo a prueba a nuestros países y sistemas sanitarios.

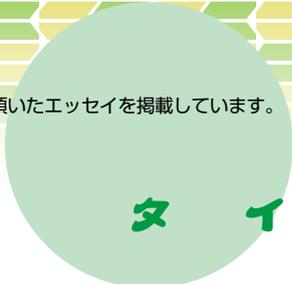
私は生まれてからずっと自分は幸運だと思っていた。大規模な戦争に苦しむことのない時代、特に20世紀に人類が耐えてきた不条理な戦争に苦しむことがない時代に生きてきた。また、先史時代この世に存在していたような猛獣に食べられてしまうのではないかという心配をする必要もなかった。バイオテクノロジー、再生可能エネルギー、医学、ロボット工学、IT、人類を支えるすべての分野で、あらゆる種類の技術の進歩に満ちた時代を生きているという安心感があった。人々がより長く、より良い人生を送ることができると考えられていた。人々はより幸福感を感じるようになり、文化のグローバル化が進むことによって他人を尊重し、異なる習慣や、文化・料理・生き方に興味を持ち、新たな交流をするようになる。そしてそれらすべてが私たちをあらゆる面で豊かにし繁栄させてくれる、そんな素晴らしい時代を生きていたのだ。

すべてがそうであった。ある日テレビでニュースを聞くまでは。新しいウイルスが発見されたというニュースだった。最初はそれほど気にならなかった。しかし日を追うごとに、このニュースは執拗に繰り返され、ついには警報が発せられ、ウイルスは制御不能となった。国境からはるか遠く離れた場所に現れたこのウイルスはどんどん近づいてきた。緊張と不安が地球を支配した。まず私が驚いたこと、それは人間と私たちの世界がどれほど脆弱であるかということだった。それまで人類が持っていた期待と明るい未来が一瞬のうちに崩れ去り、すべての安心感が宙に投げ出されてしまった。

人々は他人への不信感を感じ始めるようになった。知らない人に近づくことは危険だ。その人のことを知らなければ知らないほど危険だと。私の住む街サン・セバスティアンでも不安が広がっていった。そしてついにスペイン北部のバスク州政府は非常事態宣言を発令し、外出禁止措置が始まった。自分が置かれた状況に立ち向かわなければならぬ日々が始まったのだ。社会的距離を保つことももっとも大事なことであった。そして、まずは日々の生活のための基本的なことを考えなければならなかった。できるだけ外出をせずに効率よく食料の買い物をする方法、筋肉量を失うことなくどうやって家で過ごすか、そして何よりも、どうやって家の中でこの退屈を克服するかだ。このようにして1カ月、2カ月と禁日を経過し、外出禁止措置が解除された。精神的負担がどれだけ軽減されたことか！

あれから半年以上が経過した今、ウイルスによって最も貴重なものである命を奪われてしまった人たちのことを思うと本当に悲しい。しかし、このことによって学んだことや、思いがけない発見はたくさんあった。例えば、人は勇気を持って逆境に立ち向かうことができること、医師や看護師、街の清掃をする人、スーパーマーケットで働く人など、非常に貴重な役割を果たしている人がたくさんいるということ。つまり、自らが不安定な状況にさらされながらも他人の病気のために働く多くの人がいるということ。また、患者と直接的に長い時間接触する必要がある看護師は、ときに医師よりも重要な役割を果たしている場合もあること。見ず知らずの人を助けることは自分自身を助けることであり、恐怖は、必要な知識を備えることによって克服しなければならないということも学んだ。そして、笑顔が世界のすべてのお金よりも大事になることがあるということも。

いま私が望むことは、このパンデミックが収束すること、そしてこれによって学んだことすべてが人類の向上に活かされることだ。今後起こり得る、それぞれの国と医療システムを再び脅かすであろうパンデミックに、私たち人類が万全に備えることができることだ。



สถานการณ์โควิด-19 ในประเทศไทยกับสามีของฉัน

翻訳者 林 有紀

タイのコロナ事情と夫の話

สามีคนไทยของฉันเป็นแบบฉบับของคนทำงานจนทุ่มเททั้งชีวิตให้กับงานแทบจะไม่มีเวลาว่างที่จะทำอะไรให้เพลิดเพลินใจ เว้นแต่การฟังข่าวของประเทศไทยทางอินเทอร์เน็ตเพียงอย่างเดียว เขาเปิดข่าวไว้ตลอดเวลาแม้กระทั่งขณะนอนหลับจนถึงเช้าทุกวัน ปีนี้โรคติดเชื้อไวรัสโคโรนา 2019 หรือโควิด-19 ระบาดใหญ่ทั่วโลก สามีของฉันก็ติดตามข่าวเกี่ยวกับโรคนี้อย่างใจจดใจจ่อ ตั้งแต่กลางเดือนมีนาคมประเทศไทยก็มีผู้ติดเชื้อเพิ่มขึ้นอย่างรวดเร็วจนมีการประกาศสถานการณ์ฉุกเฉินเมื่อวันที่ 26 มีนาคม จำกัดกิจกรรมของสถานประกอบการ และสั่งสถานศึกษาให้ปิดเรียน ทำทางสามีของฉันกลัวว่าโรคนี้จะแพร่ระบาดในวงกว้างขึ้นเพราะเป็นห่วงคุณแม่ในวัยชราที่อยู่ประเทศไทย แต่ภายในระยะเวลาเพียง 1 เดือนเศษเท่านั้นจำนวนผู้ติดเชื้อจากชุมชนก็กลายเป็นศูนย์ และตั้งแต่นั้นมาผู้ติดเชื้อที่พบใหม่ก็เป็นผู้ที่เดินทางเข้ามาจากต่างประเทศเกือบทั้งหมดอย่างต่อเนื่อง ข้อจำกัดต่างๆ ก็เลยก่ออยู่ ถูกผ่อนปรนตามลำดับ พร้อมทั้งโครงการ “เราเที่ยวด้วยกัน” ก็เริ่มต้นตั้งแต่เดือนกรกฎาคมเพื่อรองรับกำลังเสริมการท่องเที่ยวภายในประเทศเช่นเดียวกับประเทศญี่ปุ่น ถึงแม้ว่าช่วงนี้มีการชุมนุมต่อต้านรัฐบาลบ่อยครั้งจึงทำให้ผู้คนมีโอกาสนี้จะรวมตัวกันหนาแน่นมากขึ้น แต่ยังไม่มีการรายงานว่าเกิดผู้ติดเชื้อรายใหม่เนื่องจากการชุมนุมเหล่านี้

เมื่อสถานการณ์การแพร่ระบาดโควิด-19 ในประเทศไทยสงบลงแล้ว สามีของฉันก็รู้สึกหายใจหายห่วงไปหมดและเริ่มวิพากษ์วิจารณ์มาตรการควบคุมโควิด-19 ของประเทศญี่ปุ่นซึ่งมีผู้ติดเชื้อรายใหม่อย่างต่อเนื่องว่า “ไม่เข้มงวดพอ” ในใจฉันรู้สึกไม่สบายใจมากนักแต่ก็ต้องยอมรับว่าการที่ประเทศไทยสามารถหยุดยั้งการแพร่ระบาดของโรคนี้ได้ภายในระยะเวลาอันสั้นนั้นก็เป็ผลจากมาตรการเด็ดขาดของรัฐบาลและระบบสาธารณสุขนั่นเอง ยกตัวอย่างเช่น บังคับให้ผู้โดยสารรถไฟและรถไฟฟ้าสวมหน้ากากอนามัย และให้สถานประกอบการใช้ระบบบันทึกข้อมูลการเข้าออกของลูกค้า ในช่วงที่โควิด-19 กำลังแพร่ระบาดขงวงกว้างก็ได้อำนาจมาตรการเชิงรุกโดยส่งเจ้าหน้าที่ไปตามร้านขายยาในพื้นที่ที่มีความเสี่ยงสูงและเก็บข้อมูลของผู้ที่มาซื้อยาเพื่อค้นหาผู้ติดเชื้อโควิด-19 นอกจากนี้ประเทศไทยยังมีอาสาสมัครสาธารณสุขประจำหมู่บ้านซึ่งเป็นส่วนหนึ่งของการบริการปฐมภูมิของรัฐ อาสาสมัครสาธารณสุขประจำหมู่บ้านนี้ได้รับการคัดเลือกจากชาวบ้านในแต่ละชุมชนและผ่านการอบรมตามหลักสูตรที่กระทรวงสาธารณสุขกำหนด ก่อนจะไปเยี่ยมตามบ้านที่อยู่ในความรับผิดชอบเป็นประจำเพื่อสอบถามเรื่องสุขภาพ ถ่ายทอดความรู้และให้คำแนะนำเกี่ยวกับการป้องกันโควิด-19 แก่ชาวบ้าน ซึ่งทำให้สามารถค้นพบผู้ติดเชื้อโควิด-19 โดยเร็วและนำตัวไปรักษาได้ต่อไป

บรรยากาศของกรุงเทพฯ กำลังจะกลับมามีความคึกคักอีกครั้ง ประชาชนบางคนถึงกับเริ่มมีพฤติกรรมหย่อนยาน สามีของฉันก็สูญเสียความสนใจในเรื่องโควิด-19 ไปมากทีเดียวและหันมาติดตามข่าวเกี่ยวกับการชุมนุมต่อต้านรัฐบาลอย่างสั่นหุลามในช่วงนี้ ถึงกระนั้นเราจะสบายใจต่อไปได้อีกนานเท่าไร เศรษฐกิจของประเทศไทยได้รับความเสียหายอย่างมหาศาลจาก “การปิดประเทศ” เป็นเวลานาน รัฐบาลจึงได้ประกาศนโยบายที่จะเปิดรับนักท่องเที่ยวต่างชาติเพิ่มขึ้นทีละน้อย อีกทั้งโควิด-19 กำลังแพร่ระบาดในวงกว้างในประเทศพม่าที่เป็นประเทศเพื่อนบ้านของไทยจนพบผู้ติดเชื้อที่บริเวณชายแดนจำนวนเล็กน้อย ยุคนี้เป็นยุคโลกาภิวัตน์ซึ่งขาดการแลกเปลี่ยนระหว่างประเทศไม่ได้ ท่ามกลางสถานการณ์ที่ทั่วโลกเผชิญกับการแพร่ระบาดของโควิด-19 ในวงกว้าง ประเทศไทยจะสามารถสกัดกั้นเชื้อโควิด-19 ไม่ให้เข้าประเทศได้ตลอดไปหรือไม่ ฉันหวังเป็นอย่างยิ่งว่าการแพร่ระบาดของโควิด-19 จะถึงจุดสิ้นสุดในทุกพื้นที่ทั่วโลกโดยเร็วที่สุด

タイ人の夫は典型的なワーカホリックで、人生を仕事に捧げている。余暇らしい余暇のない彼が唯一楽しみにしているのは、インターネットでタイのニュースを聞くこと。毎日ニュースをBGMにして眠りに落ち、そのまま朝を迎えている。今年新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行したので、夫もコロナ関連のニュースにかじりついてた。タイでも3月中旬以降に感染者が急増して3月26日に非常事態宣言が出され、商業施設の営業が規制されたり学校が休校になったりした。タイには年老いた義母がいるので夫は感染の拡大を心配している様子だったが、わずか1カ月余りで市中感染がゼロになり、その後も新規感染者のほとんどが海外からの入国者という状況が続いている。規制は徐々に緩和され、7月からは日本と同様の国内旅行促進キャンペーン「一緒に旅行しよう」も始まった。最近では反政府デモが活発化して人が密集する機会が増えているが、それによって新規感染者が発生したというニュースはまだ聞こえてこない。

タイ国内の感染が落ち着くと夫はすっかり安心し、新規感染者が絶えない日本のコロナ対策を「手ぬるい」と批判するようになった。私は内心あまり面白くなかったが、タイが短期間で感染を抑えこめたのは政府の徹底した対策と公衆衛生制度の賜物であることを認めざるを得なかった。たとえば、列車に乗る際はマスクの着用が義務づけられているし、商業施設には客の入出店を記録するシステムが導入されている。感染拡大期にはハイリスク地域の薬局に職員を派遣し、薬を購入した者の情報を集めて新型コロナウイルス感染者を探し出すという積極的な対策も講じられた。更に、タイには公的プライマリケアの一環としてヘルスポランティアなるものが存在する。各地域から選任されて保健省指定の研修を受けたヘルスポランティアが受け持ちの家庭を定期的に訪問し、住民の健康状態を尋ねたり新型コロナウイルスの予防について啓発や指導を行ったりしているのだ。これにより感染者をいち早く発見し、治療につなげることが可能となっている。

バンコクの街は賑わいを取り戻しつつあり、一部には気の緩みすら見られるようになってきた。夫も新型コロナウイルスへの関心がすっかり薄れ、最近では反政府デモのニュースに夢中である。とは言い、いつまで安心していられるだろうか。長らく「鎖国」を続けて経済が大打撃を被ったため、政府は外国人観光客の受け入れを徐々に増やしていく方針を打ち出している。また、隣国のミャンマーで感染が拡大し、国境付近で若干の感染者が確認されている。グローバル化した現代、他国との交流は不可欠だ。世界中が感染拡大に見舞われる中、タイは新型コロナウイルスをいつまでも水際で食い止め続けることができるだろうか。全世界で一刻も早く新型コロナウイルス感染症が終息することを願ってやまない。



对新冠疫情后的展望和期待

翻訳部 呂 咏 鴻

コロナ収束後への展望と期待

最近、訪日外国人逐年増加。原定今年召开东京奥运会，所以一直对更多的外国人访日抱有很大的期待，可是因为这场史无前例的新冠疫情，从2020年2月份左右起，外国人一律被禁止入境日本，直到2020年11月本文执笔时，外国游客的入境尚未解禁。而且，东京奥运会延期至一年后。非常遗憾，2020年和访日外国人相关的工作也是惊人般地骤减。

伴随着疫情的生活实属不易，然而，我们也期盼着国际间人员往来早日重启，时刻关注着有关社会动向的资讯。

近来，疫情过后想干什么以及最想去哪里在网络上成为受关注的话题。排第一的是“外面吃饭”，排第二的则是“国内旅游”。另一方面，关于日本国外的调查数据，2020年6月，日本政策性金融机构——日本政策投资银行通过公益财团法人和网络对亚、欧、美、澳洲的12个国家及地区的6266个有海外旅游经历者实施的疫情过后海外旅游意向调查结果显示，回答“想去海外旅游”或“总的来说还是想去海外旅游”的受访者占全部的82%，并且，海外旅游想去的国家或地区选择日本的占46%，排名第一。从全世界角度来看，疫情后的旅游目的地日本最有人气。

接下来，关于近年访日外国游客中居多的亚洲邻国的疫情后海外旅游意向，据2020年8月的韩国《中央日报》日语版报道，日本时隔2年再度回归疫情结束后韩国人想去旅游的国家第1名的位置。另据2020年6月NKB对居住在台湾的人实施的调查显示，疫情结束后海外旅游想去的国家回答“日本”的占67.4%，高居首位。和疫情前相比回答“想去的想法变得更强烈了”或“想去的想法无变化”的受访者总计达76.2%。最后，在近年访日游客最多的中国，疫情过后中国人的访日旅游欲望貌似也非常强烈。2020年4月由JIMC实施的关于“中国人疫情后想去的国家”的调查显示，日本高居第1位，和排在第2位的泰国拉开了很大的距离。另外，一旦解除出国限制，就想到日本去爆买和享受美食的“报复性旅游消费”（憋久了之后的释放）的声音据说充斥着中国的网络社交平台。

一方面，由于新冠疫情，访日外国游客骤减，另一方面，日本国外的游客今想来日本的意愿高涨。而且，2020年9月，国际奥委会协调委员会主席科茨在接受法新社采访时说，延期至2021年的东京奥运会“不管有没有新冠病毒都将如期举行”。日本政府也正式开始探讨解禁外国游客入境的问题，计划2021年春天开始试行外国游客有条件入境日本。去年，不仅餐饮和旅游业，和外国人赴日旅游相关的行业，受新冠病毒的影响真的很艰难，但是展望未来，我们祝愿新的一年能有所期待。

ここ最近、訪日外国人が年々増加してきました。もともとは2020年に東京五輪が開催される予定だったので、より多くの外国人が訪日することに大きな期待をよせていましたが、歴史上未曾有のコロナ禍で2020年2月頃から外国人の入国は一切禁止され、11月現在でも外国人観光客の入国はまだ解禁されていません。そして、東京五輪は1年後に延期されました。残念ながら、2020年外国人の訪日旅行（インバウンド）関連の仕事も驚くほどダウンしました。

ウィズコロナの生活は大変ですが、国際的な人の往来が一日も早く再開するのを待ち望んでおり、社会動向に関する情報を随時チェックしています。

最近の話題でコロナ収束後、何をしたいか、またどこへ行きたいのかがインターネットで注目されていました。「外食」は1位で、「国内旅行」は2位となりました。一方、日本以外の調査データは、2020年6月、政府系金融機関の日本政策投資銀行が公益財団法人の日本交通公社とインターネットを通じてアジアや欧米豪圏12カ国や地域の海外旅行経験者6266人へコロナ収束後の海外旅行意向調査を実施した結果は、「したいと思う」「どちらかといえばそう思う」が全体の82%を占め、そして、旅行したい国や地域は日本が46%で1位となりました。世界的に見れば、コロナ収束後の旅行先は日本が一番人気です。

続いて、近年訪日外国人の中で多かったアジア近隣諸国のコロナ後の海外旅行意向については、2020年8月の韓国中央日報日本語版によると、日本は2年ぶりにコロナ収束後、韓国人が旅行したい国1位に復帰したと報道されました。そして、2020年6月、NKBの実施した台湾在住の人たちへの調査によると、コロナ収束後に行きたい海外旅行先は、日本が67.4%でトップでした。コロナ前と比べて「行きたい気持ちはより強くなった」「行きたい気持ちは変わらない」が合わせて76.2%になりました。また、近年訪日観光客が最も多かった中国でも、コロナ収束後の訪日意欲は強いようです。2020年4月、JIMCに実施された「中国人がコロナ収束後に行きたい国」調査では2位のタイを大きく離して日本が1位になりました。渡航制限が解除されれば、日本へ行って買い物や食事を楽しみたいという「リベンジ消費（報復性消費）」の声が中国のSNS上に溢れているようです。

コロナ禍でインバウンドが激減しつつある一方、海外の旅行者は今後日本に来たい意欲が旺盛です。そして、2020年9月、IOCのコーツ副会長はAFP通信のインタビューに対し、2021年に延期された東京五輪は「新型コロナウイルスの有無に関係なく開催される」と表明しました。日本政府も外国人観光客の入国解禁に向け、本格的な検討に入りました。ビジネス往来などは今徐々に再開していますが、外国人観光客の対策付きの入国再開は2021年の春より試行されるそうです。昨年は、飲食・観光だけでなくインバウンドと関わる業界も、新型コロナの影響で本当に大変でしたが、未来へ目を向け、期待できる1年となるように祈っております。

思わぬところにグローバルズム

営業企画部 金山 麻美

コロナウイルスの状況が少し落ち着きだした昨年の9月末に、約半年ぶりに会う友人4人と民泊サイト Airbnb（エアビーアンドビー）を利用して大阪市内の民泊に泊ってみました。以前からメディアでたびたびこのサービスについて紹介されているのを見て気になっていましたが、よく知らない人が所有する家や宿泊施設に滞在するなんてと少し抵抗がありました。しかし、いざ調べてみると、古民家を改装したモダンな雰囲気の部屋や、民泊として使用するために新築されたアパートなど、イメージしていたものとは全く異なりました。

部屋探しの際に気になったのが、外国の方が運営している民泊が多く掲載されていたことで、日本語での問い合わせに対しても、とても流ちょうで丁寧な日本語で返信があり感心させられました。私たちが宿泊した場所も、大阪心齋橋のど真ん中にある雑居ビルの数フロアを、民泊用に改装したばかりの、まだ新築のにおいが残る都心の高層マンションの一室のようなオシャレなところで、運営者と運営スタッフの方々はどれも外国の方のようでしたが、予約時や問い合わせの際は丁寧に対応してもらえ、何の問題もなくそこでの宿泊を楽しむことが出来ました。

思い返してみると、少し前のテレビニュースで、外国人による日本のリゾート地や農地・建物などの買収が増加傾向にあると報じられていたことを思い出し、その時は他人事のように聞き流していましたが、今回の宿泊で、比較的身近な民泊業にまでその波が押し寄せて来ていることを実感しました。



滞在した部屋。昨年改装したばかりで、ダブルベッドがずらっと5つ並べられた開放感のある部屋でした。

At the end of September last year, when the COVID-19 situation was starting to calm down a bit, four of my friends and I stayed at a guest house in Osaka City booking through the Airbnb website. I had been curious about this service for some time when I saw it introduced in various media, but I was a little reluctant to stay in a house or lodging facility owned by someone I don't know well. However, when I did some research, I found out that some of the houses had been renovated from old houses with a modern atmosphere, while others had been newly built to be used as guest houses, and they were completely different from what I had imagined.

When looking for a room, one thing I was interested in was that many of the guest houses were run by foreigners, and I was impressed by the very fluent and polite Japanese replies to my inquiries. In fact, the place we stayed seemed to be run by foreigners but of course we didn't have any problems when booking and staying. It had just been renovated from several floors of a multi-tenant building in the middle of Shinsaibashi, Osaka and was a trendy place like a room in a high-rise apartment in the city center that still smelled like new construction.

Looking back on it, I remembered a TV news report not long ago about the increasing trend of foreigners buying up resorts, farmland and buildings in Japan, and at that time I almost ignored it as if it were someone else's business, but after my stay this time, I realized that the wave of this trend had reached the relatively familiar accommodation industry.



それぞれおつまみを持ち寄り、朝方までガールズトーク

自分で Go To

翻訳部 呂 咏鴻

2020年はコロナの影響で基本的には自粛生活をしていました。しかし我慢の限界。秋に入ってから、ストレス発散のために、子連れで近場へ旅に出ることにしました。

旅といっても、有名な人気観光地でなく「三密」を避け、



最寄り駅は無人駅です。改札もなく自分で切符を箱に入れてまた購入して駅を出入ります。



散策しながら公園の中へ進みます。ここでは、マスクをしなくても感染しないでしょう。

家から少し離れた田舎の公園を探しました。「Go To」キャンペーンを利用せずに、自分で電車に乗って兵庫県立丹波並木中央公園に行ってきました。時には気分転換してコロナに負けずに頑張っていきましょう。

2019年12月、我が家は息子の受験対策で頭がいっぱいでした。開けて2020年は高校受験の年であり中学校を卒業する節目の年だからです。この時はまだ中国武漢市で発生したウイルスが世界を変える出来事になるとは思っていませんでした—。

それではコロナウイルスが学校や受験に与えた影響を時系列で追っていききたいと思います。

振り返ると卒業式も高校受験も日程どおり行われ通常の年とあまり変わらないように感じますが、



色々ありましたが、無事合格しました。

受験前から中学校が休校に入ってしまった、授業の最終単元が学習できず塾へも通えず本当に不安な毎日を過ごしていました。

依然として先が見えない世の中ですが自分ができる最大限の配慮をみながしていけば、明るい2021年になると信じています。

- 1 / 1 : 国内感染者は発見されていません
- 1/16 : 国内初の感染者を発表
- 2 / 5 : ダイヤモンドプリンセス号が横浜港で隔離中
- ◎ 2/10 : 私立高校受験日 (特に混乱もなく通常年どおり)
- 2/13 : 国内初の死者確認、感染経路不明の事例相次ぐ
- 2/27 : **大阪府が全校臨時休校を宣言**
同日、首相が全国の学校に臨時休校を要請
- ◎ 3/11 : 大阪府公立高校受験日
(マスク着用が義務付けられただけで特に混乱はなく終了)
(この時は普通に高校入学準備ができると思っていました)
- 3/12 : WHO が世界の流行状況をパンデミックに認定
- 3/13 : 中学校の卒業式 (親だけが参加する形式)
(今から考えるとよく開催してくれたと思います)
- 3/24 : 東京五輪の1年程度延期を決定
- 4 / 7 : **政府が緊急事態宣言を発令**
- ◎ 4 / 8 : 高校の入学式は中止
(ガッカリしましたが当然だと思います)
- 4/27 : 大阪府が臨時休校をゴールデンウィークのあと5/10まで延長
- 5 / 4 : 政府が緊急事態宣言を5/31まで延期する事を決定
- ◎ 5/13 : 学校再開
- 5/17 : 大阪府下でのコロナウイルス新規感染者がゼロになる
- ◎ 6 / 1 : 分散授業開始 出席番号でクラスを2つに分けての授業

布マスクいろいろ

世間にマスク不足が広がった頃、ちょうど季節は春でした。花粉症の私にとってマスクはなくてはならないもの。「ないなら作ろう!」そう思って自粛期間中、せっせと作りました。

不織布で作ったりもしましたが、結局は綿や麻で作ったものが一番使いやすかったです。

左の平型プリーツマスクは涼しい時は平気でしたが暑い時は苦しかったです。夏は右の立体マスクをしていました。



主人用。薄いデニムで。



娘用。ガーゼで。



私用。綿と麻で。

コロナ禍騒動記

総務部 林 芳子

明けましておめでとうございます。コロナ禍事態の最中であってもナルゲ第54号をお届けできることを心から嬉しく感謝いたします。

KBSは1968年創業以来、今年2021年53周年を迎えました。その間幾度か経営の危機に見舞われたことがあります。しかし2020年コロナ禍による事態は、今まで経験したことのない出来事です。

とくに多言語翻訳・DTP・印刷を主力とするKBSでは、海外との交流・観光・出入国禁止によるインバウンドが途絶え、大きな打撃を受けました。

年初から新型コロナウイルスの流行が報じられ不安が増す中、KBSでは、社内におけるマスク着用、消毒液設置、手洗い励行など注意を喚起し、通勤ではラッシュアワーをさけて通勤できるよう時間をずらすなど行いました。幸い2年前のリフォームにより社員同士の位置は間隔があいていました。

3月のミーティングでは、観光・旅行業界への影響に言及。とくに学校が休校になったため、子どものいる社員に有給休暇を上手に使うことで対応するよう勧めました。

4月に入り4月7日、緊急事態宣言が発令されると仕事の動きは止まりました。



4月21日から休業制度を採り入れ、勤務時間は1時間30分短縮(9:30~17:00)、担当部署によるシフトを組み、4月30日、5月1日は全日休業しました。最初は5月20日までの計画でしたが、6月20日まで延長しました。

3月から5月にかけて、国や自治体のホームページの情報が日ごとに更新されていき、毎日ニュースにとらめっこしていました。初めての経験のため様々な手続き、書類作成なども銀行の方や労働局の相談窓口にお問い合わせたりしながら万全を期しました。そうして持続化給付金、大阪府休業要請外支援金、両立支援等助成金、雇用調整助成金など申請し受けることが出来ました。

新しい年にはワクチンが開発され実用化が実現されることを期待しています。皆さまどうぞご健康に留意され、知恵をしばってこの事態を乗り越えて行かれますようお祈り申し上げます。

年末年始休業日のお知らせ

過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。

年末年始を下記の通り休業させていただきます。

新しい年も、なにとぞお引き立てのほどよろしくお祈り申し上げます。

12月26日(土)～1月6日(水)

1月7日(木)より平常通り営業いたします。



【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

発行日 2021年1月1日

発行/
編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL http://www.kbsjapan.com/

編集後記

●光陰矢の如し。またナルゲ編集長担当は私の番が回ってきました。去った一年はコロナ禍でほとんど行事はなかったため、編集長にとっては、一番難しいことは、表紙の写真でした。最後社長のサポートのおかげで表紙が完成できました。ここで社長と共に今期のナルゲ投稿協力の皆様へ感謝の意を表します。

2021年は丑年になります。中国の干支文化の中で、丑年は牛年とも書き「向上すること」を意味しているようです。コロナはすぐに収束するとは思えませんが、対処方法が見いだせたり、徐々に元の生活に戻る兆しが見えかけてきたらと祈ります。(呂)

●8月制作部の一員として勤めておられた李秀泰次長が退職されました。長年お疲れさまでした。長年の経験を引き継ぎ納期に支障をきたすことなく仕事を全うしていきたいと思います。コロナ禍で送別会を開いて送り出せなかったことが心残りです。(稲木)